

結核は、過去の病気ではありません…

先月(H28年4月)、結核の集団発生がニュースになりました。また、最近テレビCMで結核に対して注意喚起が行われています。結核を発症する人は毎年約2万人、平成26年は約19,615人が新規発症者と増加傾向にあります。これはなぜなのでしょう？

結核とは「結核菌」に感染することによって起こる病気です。しかし、結核菌に感染しても必ず発病するというわけではありません。通常は体の免疫力によって、結核菌は増殖を抑え込まれ休眠状態になります。ですが、体力の低下や他の病気になって免疫力が弱まると、休眠していた結核菌が再び活動をはじめ発病する可能性が出てくるのです。

日本の結核患者の傾向をみると、70歳以上の高齢者が約6割を占めます。これは若いころに感染していた方が、高齢になり免疫力が落ちたことで発症しているようです。

しかし、大都市圏では20～40歳代の若い世代も結核を発症する人が増えています。大都市圏で増加している理由としては、大都市は人口が多く狭い地域に人が密集しがちなために感染しやすいとみられています。そして若い世代の発症率の増加理由は二つ挙げられ、ひとつめは戦前や戦後時期とは異なり自然に結核菌に遭遇しないため体の中に結核の免疫を持っていないこと、ふたつ目は『結核は過去の病気』と誤解し、咳が続いても受診せずに生活を継続したり、建物の気密性の高さなどの環境的要因を含め発見が遅れてしまい周囲に広げて集団感染に至ることもあります。

普段から出来る対策は、やはり免疫力を高めることです。規則正しい生活と栄養バランスのよい食事、十分な睡眠、適度な運動など健康的な生活を心がけましょう。



こんな症状は、早めの受診。早く気が付くために、定期健診を受けましょう。

- せきが2週間以上続く
- たんがでる、たんに血液が混じる
- 体が、だるい
- 微熱が続く
- 急に体重が減った



気になる症状があったら、まずは受診し医師に相談してみましょう。検査をおこなって、結核に感染しているか判断することが第一歩です。

せきなどの症状があるときは、『咳エチケット』

周囲の人や家族に、拡げないためのマナーです。

結核だけでなく『せき』などの症状があるときには、マスクを着用しましょう。感染を周囲の人へ拡げないための、大切なマナーになります。医療機関へ受診の際にも、ぜひ『咳エチケット』にご協力ください。

